

平成26年度「全国学力・学習状況調査」における天満中学校の結果の分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語・数学）に関する調査」と「児童生徒質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

1 調査の目的

- （1）義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- （2）学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- （3）以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の中学校第3学年の原則として全生徒
- ・天満中学校では、3年生 119名

3 調査内容

（1）教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語A・数学A】	主として「活用」に関する問題 【国語B・数学B】
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

（2）児童生徒質問紙調査

児童生徒質問紙調査
・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査

平成26年度「全国学力・学習状況調査」検証シート

大阪市立 天 满 中 学 校

生徒数

119

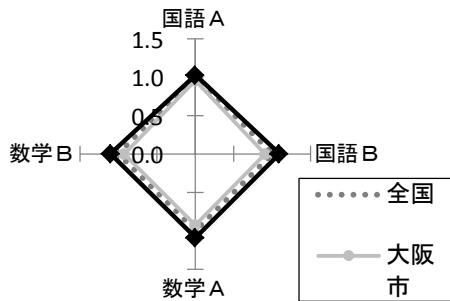
平均正答率 (%)

	国語A	国語B	数学A	数学B
学校	81.2	55.7	73.5	65.9
大阪市	75.9	46.3	62.5	55.2
全国	79.4	51.0	67.4	59.8

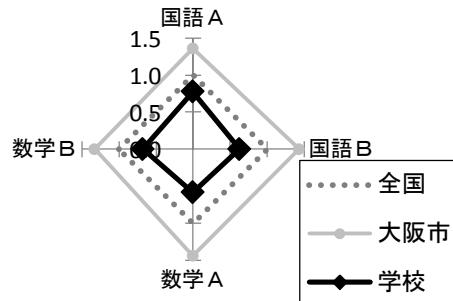
平均無解答率 (%)

	国語A	国語B	数学A	数学B
学校	2.4	2.2	2.5	7.4
大阪市	4.2	5.0	6.2	14.5
全国	3.1	3.5	4.3	10.9

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



結果の概要

- 国語・数学においてすべて全国平均より正答率の割合が高い。国語においては「読むこと」「書くこと」に関して正答率が高い。特に、「読むこと」に関しては全校区平均より大いに上回っている。これは、朝読書の実施や図書館開放などの取り組みや今度より始めた漢字検定模擬試験の実施や検定前学習の実施によるものと考えられる。
- 数学においてはすべての項目において全国平均より上回っている。生徒質問紙から「数学が好き」は全国平均より下回るもの「数学の授業の内容はよくわかりますか」において肯定的な回答が多く、理解しようとする意欲があり基礎基本の理解がされていると考えられる。
- 国語数学の無回答率の低さを見ても粘り強く最後まで問題を解く姿勢が表れている。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

- 国語において基本となる「読み・書き」において正答率が高い。新聞の社説を使った朝学習や朝読書・図書館開放・書写などの取り組みなどによる成果と考えられる。「国語の授業の内容がよくわかる」において肯定的な回答が多く授業に創意工夫をした結果が生徒の理解につながったと考えられる。
- 数学において基本的な計算はもとより基礎基本の問題において正答率が全国平均を上回っている。これは朝学習や単元ごとの確認プリントを使い基礎基本を徹底したことの成果と考えられる。
- 今後取り組むべき課題として国語では「話す・聞く」の項目が他に比べて低く今後、言語を活用したコミュニケーション能力の向上が必要である。数学においては全体的にはすべての項目で平均を上回っているが学力の個人差は大きく習熟度別少人数制授業や、チーム・ティーチングを今以上に充実させるとともに、言語活動を積極的に取り入れ、数学を活用する姿勢を養っていくことが必要である。

【国語】

結果の概要

A、Bともに昨年度と比べてもさらに数ポイント全国平均を上回る結果となった。領域別では「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が全国平均を大きく上回っており、日々の朝読書や授業における漢字の学習の成果がうかがえる。一方、「話すこと・聞くこと」が全国平均を下回っており、今後の改善点として挙げられる。

A 問題

平均正答率(%)

学校 大阪市 全国

学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	4	70.0	68.5	72.3
	書くこと	6	84.3	80.6	83.4
読むこと	5	87.2	81.8	82.9	
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	17	81.0	74.3	78.7	

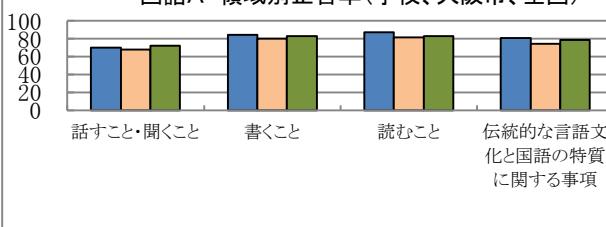
B 問題

平均正答率(%)

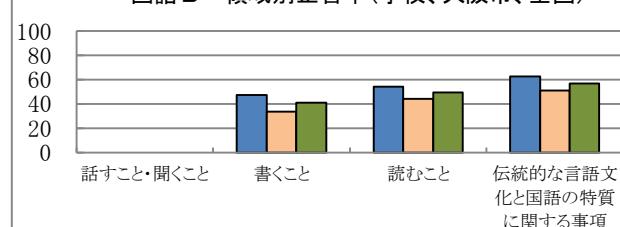
学校 大阪市 全国

学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	0	—	—	—
	書くこと	3	47.3	33.6	41.0
読むこと	8	54.2	44.1	49.2	
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	62.6	51.3	56.8	

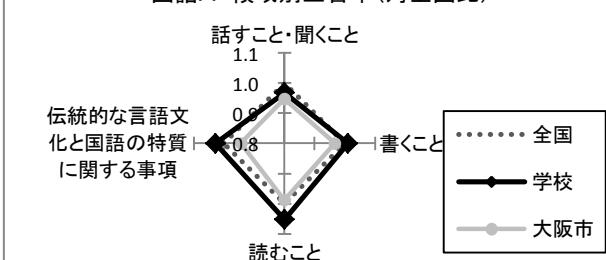
国語A 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



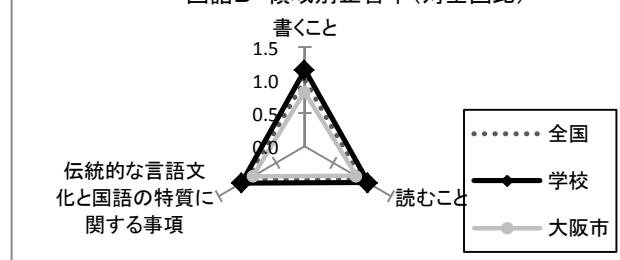
国語B 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語A 領域別正答率(対全国比)



国語B 領域別正答率(対全国比)



国語に関する「生徒質問紙」

50

国語の勉強は好きですか

52

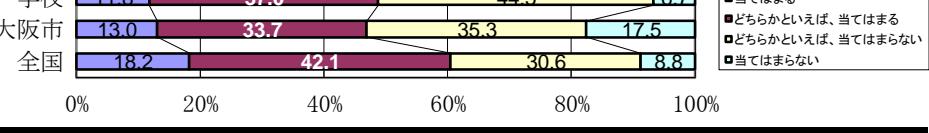
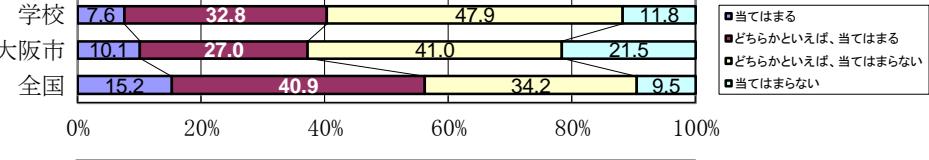
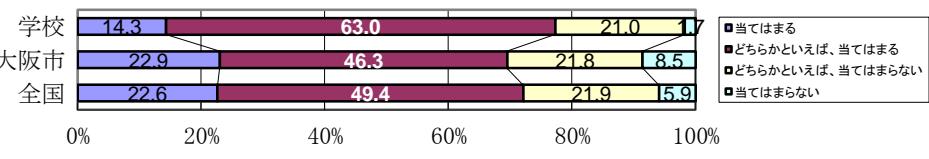
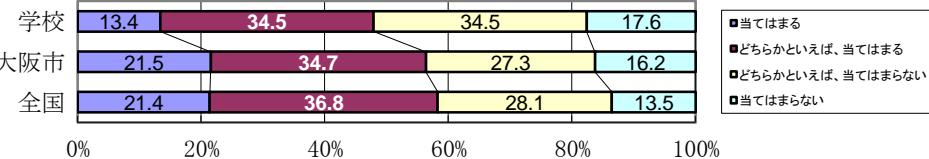
国語の授業の内容はよく分かれますか

55

国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか

57

国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか



成果と課題

図書室の活用や、学校における漢字検定の実施により、「読むこと」「書くこと」などの能力を生徒が身に付けている。しかし、自分の考えを相手に伝える活動を苦手にしている生徒が多く、授業の工夫により言語活動を活性化させ、国語に対する苦手意識を払拭できるような取り組みが必要である。

今後の取組

「話すこと・聞くこと」において全国平均より下回っている。この点において今後、言語活動の充実を図り、自己の表現を相手に伝える授業の展開を行いコミュニケーション能力を養う取り組みを行う。

【数学】

結果の概要

昨年度ほど突出した差ではないものの、全国平均を大きく上回る結果となた。領域別で特に苦手としている分野が見当たらず、幅広く知識を身に付けている。資料の活用分野の正答率が高く、日常生活を意識した題材を取り上げた授業が結果に結びついてきている。

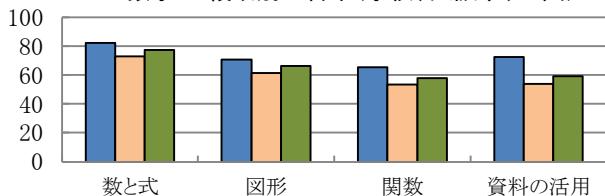
A 問題

平均正答率(%)

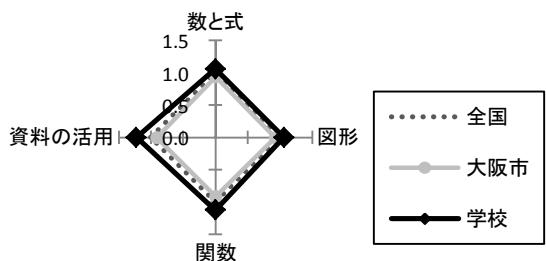
学校 大阪市 全国

学習指導要領の領域等	数と式	12	82.2	72.8	77.4
	図形	12	70.5	61.2	66.4
関数	数と式	8	65.4	53.2	58.0
	資料の活用	4	72.3	54.0	59.1
学習指導要領の領域等	数と式	3	64.4	52.1	56.9
	図形	5	65.0	55.0	58.6
関数	数と式	5	68.2	58.5	64.4
	資料の活用	2	64.7	51.9	55.9

数学A 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



数学A 領域別正答率(対全国比)



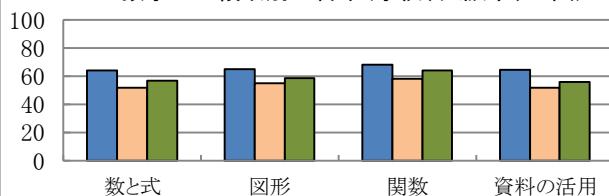
B 問題

平均正答率(%)

学校 大阪市 全国

学習指導要領の領域等	数と式	3	64.4	52.1	56.9
	図形	5	65.0	55.0	58.6
関数	数と式	5	68.2	58.5	64.4
	資料の活用	2	64.7	51.9	55.9
学習指導要領の領域等	数と式	3	64.4	52.1	56.9
	図形	5	65.0	55.0	58.6
関数	数と式	5	68.2	58.5	64.4
	資料の活用	2	64.7	51.9	55.9

数学B 領域別正答率(学校、大阪市、全国)

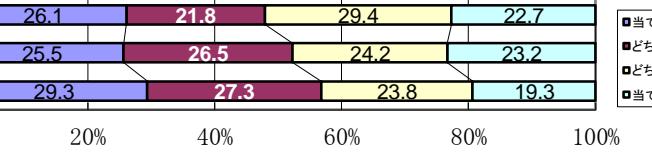


数学に関する「生徒質問紙」

62

数学の勉強は好きですか

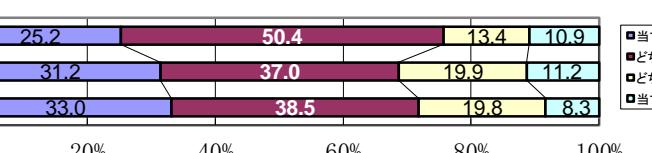
学校
大阪市
全国



64

数学の授業の内容はよく分かりますか

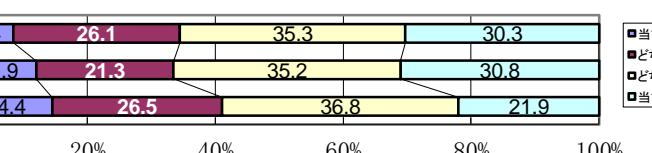
学校
大阪市
全国



67

数学の授業で学習したこと
を普段の生活の中で活用
できていかと考えますか

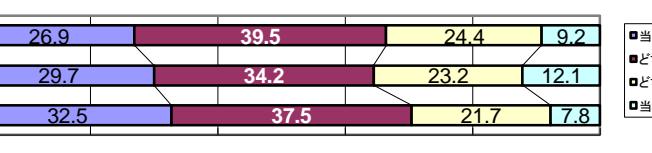
学校
大阪市
全国



70

数学の授業で公式やきまり
を習うとき、その根拠を理解
するようにしていますか

学校
大阪市
全国



成果と課題

日々の計算の反復練習や、小テストを日常的に行なうことで、基礎基本の定着ができつつある。しかし、数学の授業内容は概ね理解している生徒は多いものの、数学が好きな生徒の割合が全国平均を下回っている。生徒の興味関心を引きつけるような授業を展開することによって、一層の内容理解につなげてゆく必要がある。

今後の取組

全国平均を上回る結果だが、学力の個人差は大きい。習熟度別少人数制授業や、チーム・ティーチングを今以上に充実させるとともに、言語活動を積極的に取り入れ、数学を活用する姿勢を養っていく。今年度、ICTの貸出校であるため、生徒の興味関心を引き出すような活用を行う。

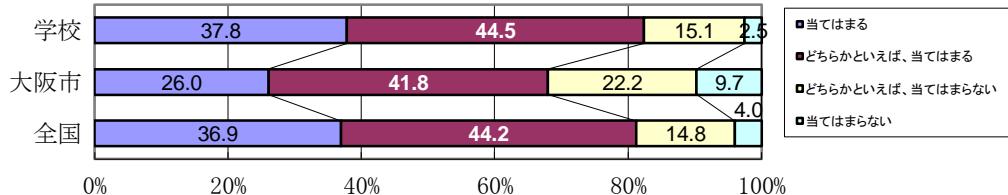
学びの充実に向けて(1)

結果の概要

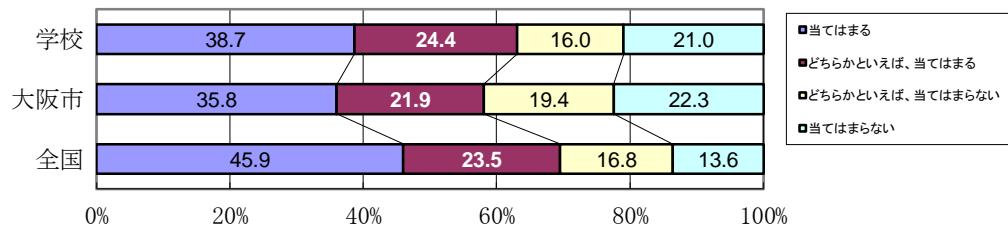
「自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか」に対して肯定的な回答が多く全国平均を上回っている。これは、教員が授業に対して生徒の興味関心を引き出すよう創意工夫がなされていたと考えられる。しかし、「読書は好きですか」の回答に対して肯定的な回答が大阪市の平均は上回ったものの全国平均よりは下回った。ただ、朝読書や図書館利用をはじめ国語科を中心として読書活動の充実を図ってきた。今後の成果が期待される。

質問番号	質問事項
------	------

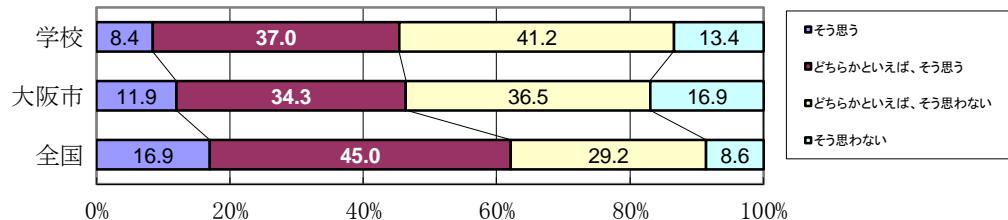
42
1・2年生のときに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか



53
読書は好きですか



48
生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



成果と課題

1・2年次の各授業においては生徒の考えを引き出す授業が展開されていると考えられる。読書活動においてもあらゆる機会を利用して様々な興味関心を引き出すよう努めている。それらが回答に肯定的に表れている。課題としては、「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」に対して、肯定的な回答が大阪市の平均を下回っており、自ら考えて行動する自主的な力や判断が弱い。昨年のように自らの言葉でまとめ、発表する力を育成するため言語活動を積極的に取り入れた指導などを推進していく。

今後の取組

これから自ら卒業後の進路を考え決定していく中で生徒間でお互い仲間としてそれぞれの考えを相互に話し合える環境作りをしていく必要がある。

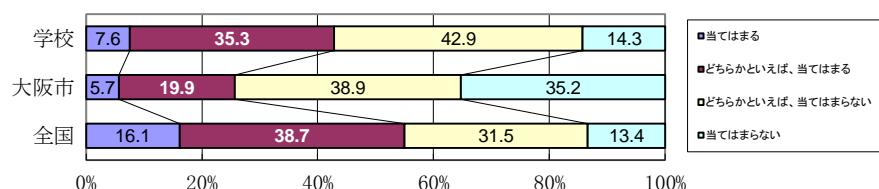
学びの充実に向けて(2)

結果の概要

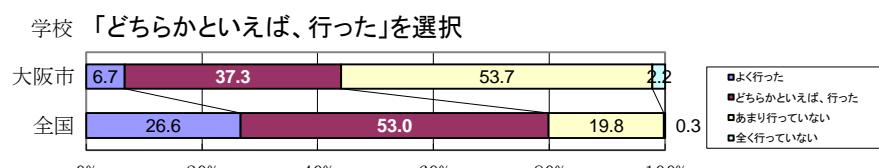
学校では総合的な学習の時間の活用においてキャリア教育・集中実践などにより自ら課題を持ち調べまとめて発表をし全員で共有するようにしている。しかし、結果から、生徒は、これらの取り組みについて自主的に活動している意識が低いことがわかる。

質問番号	質問事項
------	------

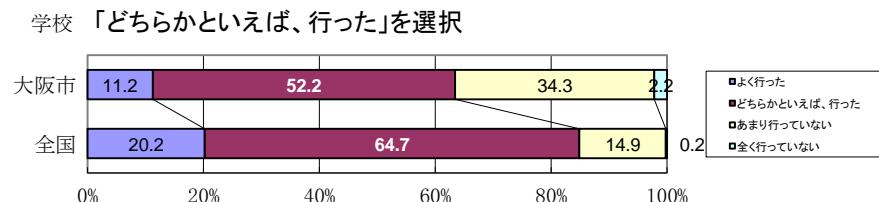
40
「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



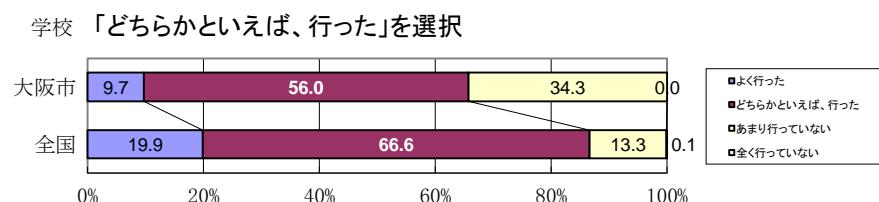
42【学校質問紙】
総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか



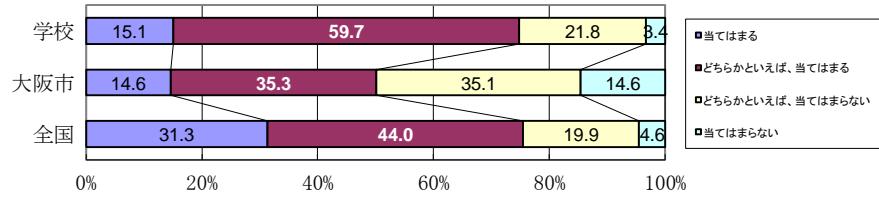
30【学校質問紙】
各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けましたか



41【学校質問紙】
自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか



43
1・2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか



成果と課題
集中実践において系列ごとに調べ・まとめをしていく中で1・2年生の授業での生徒間での話し合いの活動を十分行っている。しかし、それらが生徒自ら課題を見つけ情報を収集しているという自覚にあまり結びつかない。

今後の取組

集中実践を行うにあたっての事前の意義を生徒に明確に理解させるとともに、キャリア教育を含む総合学習を今後いっそう充実させていく必要がある。

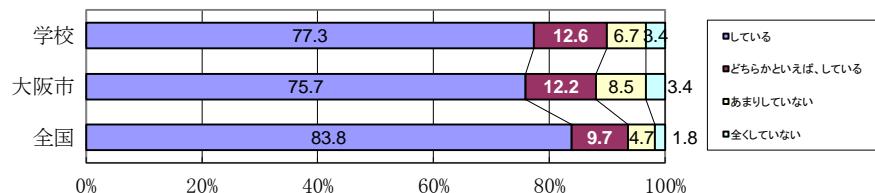
基本的生活習慣

結果の概要

- ・基本的生活習慣においては、「朝食を毎日食べていますか」「毎日同じぐらいの時刻に起きていますか」の質問もに対して、ほぼ昨年度と同じ割合であるが、全国平均に近く大阪市の平均より上回っている。基本的生活習慣においてはおおむねできていると考えられる。

質問番号	質問事項
------	------

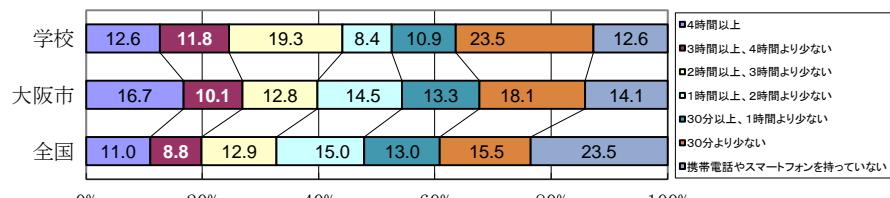
1	朝食を毎日食べていますか
---	--------------



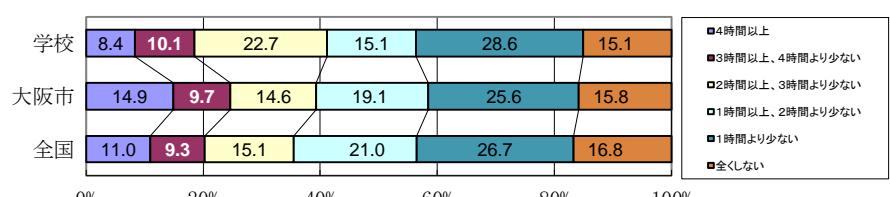
3	毎日、同じぐらいの時刻に起きていますか
---	---------------------



13	普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(ゲームは除く)
----	--



12	普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム等含む)をしますか
----	---



成果と課題

- ・日々学校生活において基本的生活習慣を守るということにおいての指導は常になされている。その成果や保護者との連携により、基本的生活習慣を生徒の大半が守れている。
- ・携帯、スマートフォンなどの使用については各学年において情報モラル教室の実施に伴い正しく使う指導はしている。しかし、情報モラルをめぐるトラブルは出てきている。

今後の取組

- ・基本的生活習慣については引き続き指導していきたい。テレビゲーム、携帯、スマートフォンなどの使用時間は全国平均より使用時間が長い。この点について、今後情報モラルも含めて使用に関して保護者との連携をとりながら改善していかねばならない。

家庭学習

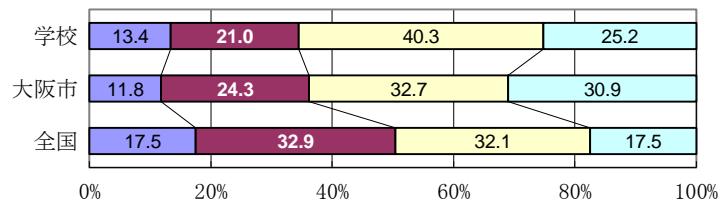
結果の概要

家庭での学習においては、家での復習や学習計画は全国平均を下回っているにもかかわらず、学校以外での学習総時間においては全国平均を上回っている。これは、学習塾等の利用率が高く、学習に対しては保護者生徒ともども意識は高いと考えられる。

質問番号	質問事項
------	------

24

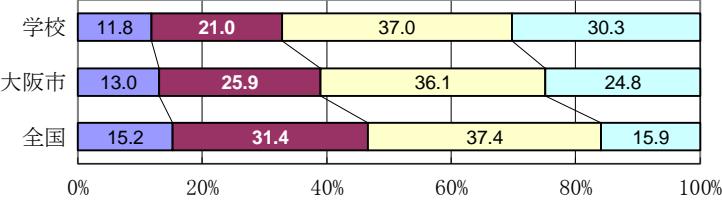
家で、学校の授業の復習をしていますか



- している
- どちらかといえば、している
- あまりしていない
- 全くしていない

21

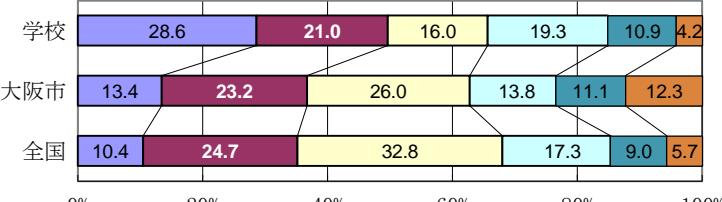
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか



- している
- どちらかといえば、している
- あまりしていない
- 全くしていない

14

学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)



- 3時間以上
- 2時間以上、3時間より少ない
- 1時間以上、2時間より少ない
- 30分以上、1時間より少ない
- 30分より少ない
- 全くしない

成果と課題

・日々の学習指導が学習に対する意欲・時間に成果として表れている。しかし、放課後の部活動や取り組みなどにより家庭での学習は時間的に制限されることも多い。また、学習塾等の利用率も高くそこでの学習が学校外での学習の大半を占めている。

今後の取組

・生徒全体としては一日当たりの学習時間が多い層の割合が高い。しかし、一方で「30分未満」「全くしていない」という生徒の割合も全国平均から比べると多い。これらの生徒に対して放課後・土曜学習会などを活用し自主学習習慣をつけさせていく。

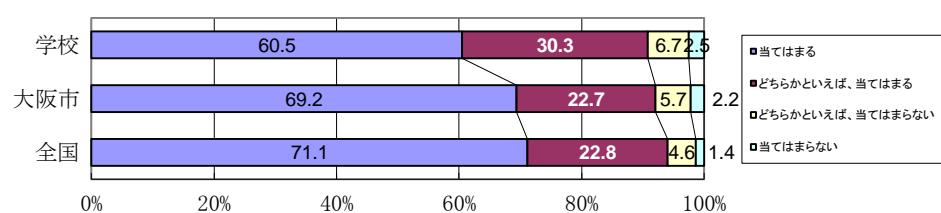
自尊感情・規範意識

結果の概要

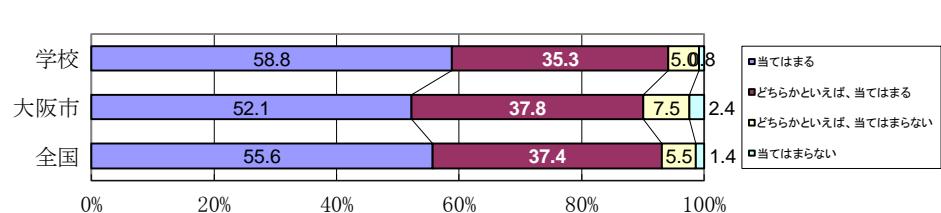
「学校の規則を守っていますか」の回答より規範意識の高さがみられる。しかし、その反面、「認められている」という意識が低く、それは、自尊感情の低さにもつながっている。

質問番号	質問事項
------	------

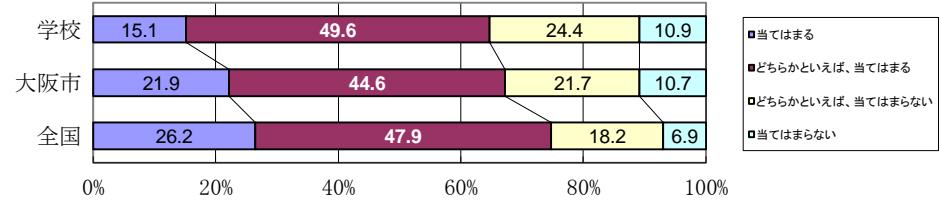
4
ものごとを最後までやり遂げ、うれしかったことがありますか



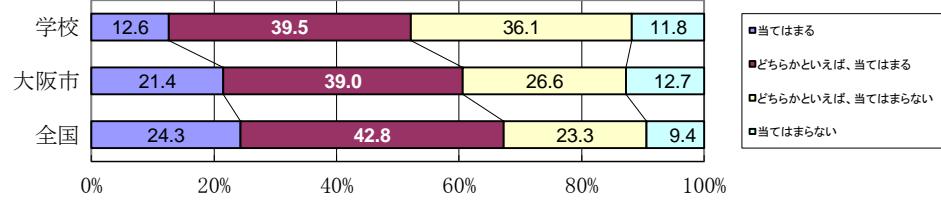
34
学校の規則を守っていますか



28
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



6
自分には、よいところがあると思いますか



成果と課題

・1, 2年次から規則を守ることの指導は徹底して行った成果がこの規範意識の高さにつながっていると考えられる。しかし、課題としてその指導に対して「認められていない」と判断する生徒の割合も高くそれらが、自尊感情の低さを表している。

今後の取組

・今後、卒業後の進路決定において自ら考え判断していくことで自信となり、それが自尊感情を高めていくことになる。今後の丁寧な進路指導により自己が認められ、自尊感情が高まっていくと考えられる。

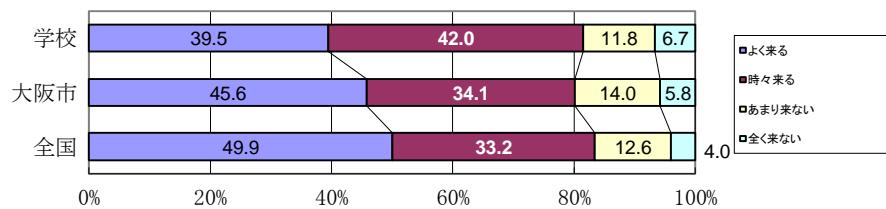
学校・家庭・地域の連携

結果の概要

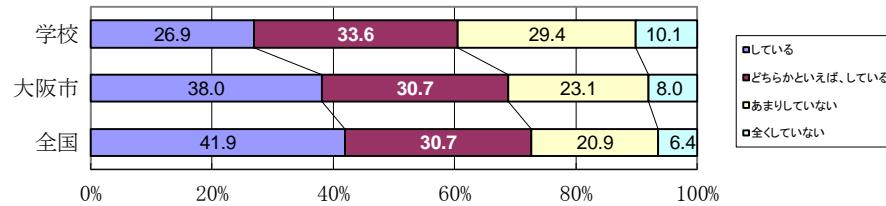
年6回の土曜授業の学校公開、体育大会、文化活動発表会において多数の保護者、地域の方々の来校がみられた。これは学校に対して関心が高く、評価されていると考えられる。その一歩で「家人の人と学校の出来事について話をしますか」「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」の設問に対して肯定的な回答が低い。これは、学習塾利用率が高いことや、保護者の共働きが多く家人との接する時間が少ないことが原因の一つとも考えられる。地域・社会に関心が低いのは個々の生活圏が狭く興味関心が低いことの表れとも考えられる。

質問番号	質問事項
------	------

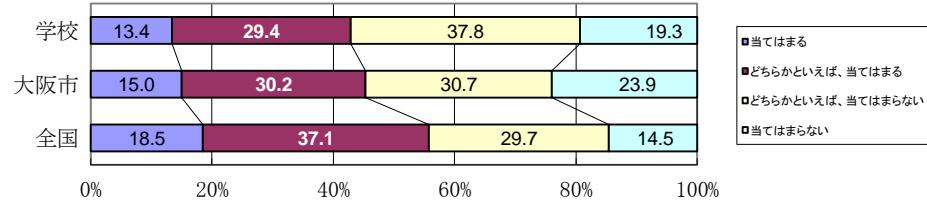
20
家人の人(兄弟姉妹除く)は授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか



19
家人の人(兄弟姉妹除く)と学校での出来事について話をしますか



30
地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか



成果と課題

・学校公開において北区内の小学6年生の保護者も多く見学に来ている。土曜授業を原則公開にした効果であると考えられる。保護者においても学校への関心は高く行事の参観率も高い。課題としては、生徒と保護者との話相互理解する時間の確保にあると考えられる。

今後の取組

・今後、卒業後の進路を決めていく中で保護者との話し合う時間が増えていく。それが、相互の理解につながると考えられる。

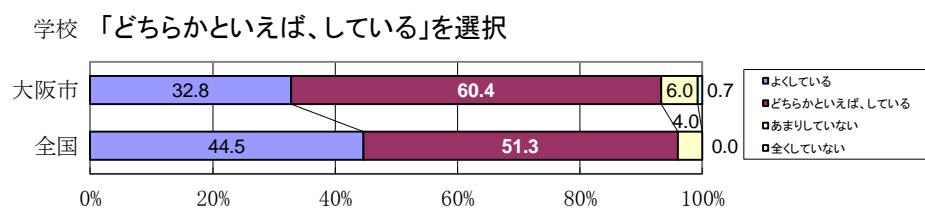
学校組織の改善

結果の概要

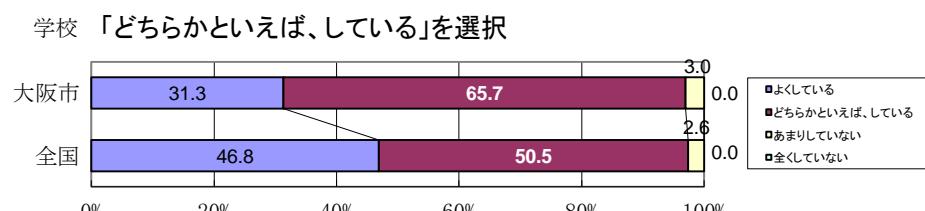
学校運営においては、各学年・各部・各委員会の主任や各長を中心に運営できている。「学校運営の計画」を基に主任会を中心に全教職員の協力の下スムーズに取り組んでいる。教職員の資質向上においても計画的に行ってている。

質問番号	質問事項
------	------

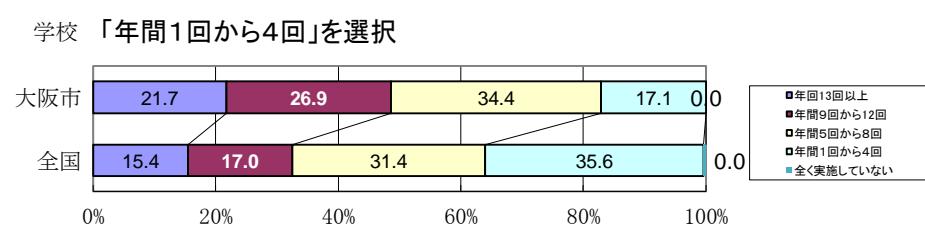
98【学校質問紙】
学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか



96【学校質問紙】
学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し、取組に当たっていますか



89【学校質問紙】
授業研究を伴う校内研修を前年度に何回実施しましたか



成果と課題

今年度、前後期に分けて2回の授業研修週間を実施し、全教員、1回以上の研究授業・相互参観・振り返りの評価シートの実施をし、全教員による研究協議を実施した。授業力の向上を目指し計画的に推進している。今後の課題として、生活指導等の生徒への指導力、学級経営などの指導力の向上を計画的に研修を進めていかねばならない。

今後の取組

次年度が「学校運営の計画」中期目標最終年度になる。今年度末に集約し次年度に向けての学校運営を計画的に進めていくため組織の再編等を考えいかねばならない。研修においても全教員が個々の課題を持ち校内に限らず自ら研修に参加できる環境を設定しなくてはならない。